軽井沢サクラソウ会議
NEWSLETTER ニュースレター

軽井沢の自然環境を保全するボランティア団体　設立2000年

Vol.136　2025.10.5発行

キツリフネ

皆さんのおうちの周りに、今年、キツリフネが咲いたでしょうか？毎月調査している軽井沢タリアセンでは、まったくと言っていいほどキツリフネの花を見ません。きのこも少なくて、9月15日に計画していた「きのこ観察会」も中止になってしまいました。地球温暖化がじわじわと生きものへ影響し始めているのではないかと、とても心配です。

［今城治子］

軽井沢の四季彩便り 53

『ヤマホトトギス』　写真・文 渡辺 久義（会員）

早いもので今年も神無月。軽井沢も新そばが美味しい季節ですね。この花はミステリアス。塔のような花柱、三叉の花糸、独特の紫斑。ホトトギスの模様に似ているのが由来。小さなカッコウのような鳥で「ほと伽す我と話に卯の花の浮き夜の中に泣き渡る乱」と平安歌人が熱い恋にたとえました。この花もよく見ると情熱的な風貌に見えてきますね。「信州信濃の新そばよりも、私ゃあなたのそばが良い」たまには団子より花で行きますか。

軽井沢サクラソウ会議　記録＆予定《記録〇（8～9月）予定●（10月～2026年2月）》10月～2月

〇8月7日（木）　植物標本事始め③
〇8月8日（金）　モニタリング1000里地調査④・定例会・ミニ講座
〇8月9日（土）　「野の花さんぽ」③
〇8月16日（土）　三ツ石草刈り
〇9月11日（木）　植物標本事始め④
〇9月12日（金）　モニタリング1000里地調査⑤・定例会・ミニ講座
〇9月13日（土）　発地トレジャーハンティング⑤植物の不思議「野の花さんぽ」④
〇9月15日（月）　きのこ観察会
〇9月28日（日）　我孫子谷津ミュージアム見学

●10月10日（金）　モニタリング1000里地調査⑥
●10月11日（土）　「野の花さんぽ」⑤
●11月1日（土）～3日（月）総合文化展
（サクラソウ自生地の植物標本展示）
●11月6日（木） 13:30～ **植物標本事始め⑤**
●11月7日（金） 14:00～ **定例会**　15:00～ **ミニ講座**
●12月12日（金） 14:00～ **定例会**　15:00～ **ミニ講座**
2026年
●1月8日（木） 13:30～ **植物標本事始め⑥**
●1月9日（金） 14:00～ **定例会**　15:00～ **ミニ講座**
●2月12日（木） 13:30～ **植物標本事始め⑦**
●2月13日（金） 14:00～ **定例会**　15:00～ **ミニ講座**

CONTENTS

1　巻頭言／『軽井沢の四季彩便り』53／記録＆予定
2　軽井沢のチョウとなかよくなろう！・ツチガエルの声に導かれて
3　発地の素晴らしい植物たち／三ツ石の草刈り／長野県の「自然観察指導員交流研修会」in軽井沢
4.5　サクラソウ全町調査
6　アケボノソウの開放された蜜、実は深謀遠慮？
7　農と草　農業体験と言う名の自然観察会をやってみた❷
8　コラム❻／事務局から

6/28 第3回 発地トレジャーハンティング 軽井沢のチョウとなかよくなろう！

お天気に恵まれ、軽井沢在住、栗岩竜雄さんを講師に開催されました。

ベニシジミ、スジグロシロチョウ、コチャバネセセリなど、チョウ10種を含む、30種類もの生きものを観察できました。軽井沢で見ることが少なくなってきたアサマシジミを見ることができるだろうか？近似種のヒメシジミは、たくさん採集出来たのですが、アサマシジミはなかなか見つかりません。

発地地区をひとまわりし、次にアサマシジミがいる可能性があるかも…と、風越鷲穴半自然草原（自然園）へ移動しました。こちらの草原では絶滅危惧種の植物ヤマタバコ、アサマシジミの食草のナンテンハギなども見られました。終了後、時間が許す人達だけで、栗岩さんともう一周しました。

すると、栗岩さんがアサマシジミを発見してくださり、みんなで大喜び！「来年は見る事が出来ないかもしれないので…この場所でこのチョウを見たという事をみなさん、覚えていてください。」との栗岩さんの言葉が胸に響きました。

どの蝶かな？ 図鑑を見ながら丁寧に蝶を確認

環境が影響するたくさんの生物が暮らす発地地区の豊かさ、大切さをもっと知ってほしいと願う観察会でした。［小清水聡美］

7/19 第4回 発地トレジャーハンティング ツチガエルの声に導かれて

第4回「発地トレジャーハンティング」に参加しました。テーマは「カエルのくらし～盛夏編～」。私はこれで二度目の参加です。前回があまりに楽しく、気づけばまた足を運んでいました。

水辺の生き物の話に聞き入る子どもたち

講師は、第一回目からの石塚徹さん。15名の参加者たちは長靴にゴム手袋といういでたちで集合。ゴム手袋はカエルに人間の体温が伝わらないようにという心遣いだそうです。網と懐中電灯を手に夕暮れの田んぼの畦道を進みます。今回の目的は「ツチガエル」。

やがて暗くなるとグワッグワッグワッとツチガエルの低い鳴き声が、小さく響き始めました。鳴き声の主を探しながら進みます。私たちはツチガエルだけでなく、ドジョウやおたまじゃくし、ゲンゴロウといった水辺の仲間たちとも出会いました。子どもも大人も夢中になり、都会では得がたい、素朴で豊かな時間を過ごしました。

最後は石塚さんによる丁寧な解説があり、それぞれの生きものの暮らしについて知ることができました。発地には、まだこんなにも豊かな自然が残っている。この風景が、ずっとこのままであってほしいと願いました。［志甫啓太］

トレジャーハンティング

9/13

第5回 発地トレジャーハンティング
発地の素晴らしい植物たち

発地は休耕田の多い湿地帯で、開発の進む軽井沢で数少ない残された自然の宝庫だ。群馬県自然史博物館の大森威宏先生が講師の植物観察会に参加した。

稲穂が黄金色のこうべをたれ美しい水田の間にはスゲ・ヨシの茂る休耕田がパッチワーク状に残り、農道の端には水路がはりめぐらされている。そこには、イガ栗のような形の実のなるナガエミクリなどが見られ、豊かな湿地の観察がスタート(今年は猛暑のため水位が低くナガエミクリはとても元気だとのお話に異常気象もプラスに働く場合もあると知った)。水路脇には白い花の咲くオモダカやヘラオモダカも見られ水生植物の種類も豊富で皆生き生きとしている。

スゲの優勢な草地の中スクっと伸びたススキのような茎の先に1～2cmの球状の愛らしい花をつけたカヤツリグサ科の植物が、本日一番の「お宝」ヒメマツカサススキ。2002年には田んぼ8面に3000株以上確認されたものが現在は5面300株程度まで減少。その分布の中心は長野県であるが、発地が最大の生息地でかけがえのない地域と知り、その貴重さに心が震え守ってゆかなくてはいけないと思った。

一番のお宝、ヒメマツカサススキ
（牧野富太郎が発見）

第二の「お宝」はヤチアザミ。上向きに花を咲かせる特徴があり逞しい地下茎で横に広がってゆく特異なアザミで、湿地や休耕田に生育。長野県（大町・白馬～軽井沢）・群馬（嬬恋）の限られた地域に見られる希少種だ。

観察会の終盤草原の上空に1羽のオオジシギが急上昇、トレジャーハンティングのエンディングを飾った。10年20年後もこのような貴重で多様な植物たちがこの地に生き生きと暮らしていけることを祈りたい。 ［伊藤恵子］

7/13

長野県の「自然観察指導員交流研修会」in 軽井沢

2025年7月13日、「自然観察ながの」との交流研修会が軽井沢で開催されました。「自然観察ながの」は、長野県内で自然観察会を行う自然観察指導員の集まりです。今回の研修会はサクラソウ会議がガイドを務め、自然観察と意見交換を行いました。参加者は「自然観察ながの」とサ会議の会員の15名でした。

軽井沢タリアセンでのフィールド研修のひとこま

まず中央公民館で、現在進行中の馬取山田地区における畑化工事の経緯や問題点、アサマフウロ・ホトケドジョウなどの希少種を別の場所へ移植する保全活動について解説しました。続いて現地を訪れ、植生の変化や現状を視察。午後は、軽井沢タリアセンでの昼食後、園内の「モニタリング1000里地調査」地で植物観察と養蜂場を見学しました。参加者からは「現地の活動を実際に見られて勉強になった」「観察データを取ることが評価につながる」といった声もあり、多くの学びを得た一日でした。

［志甫妙子］

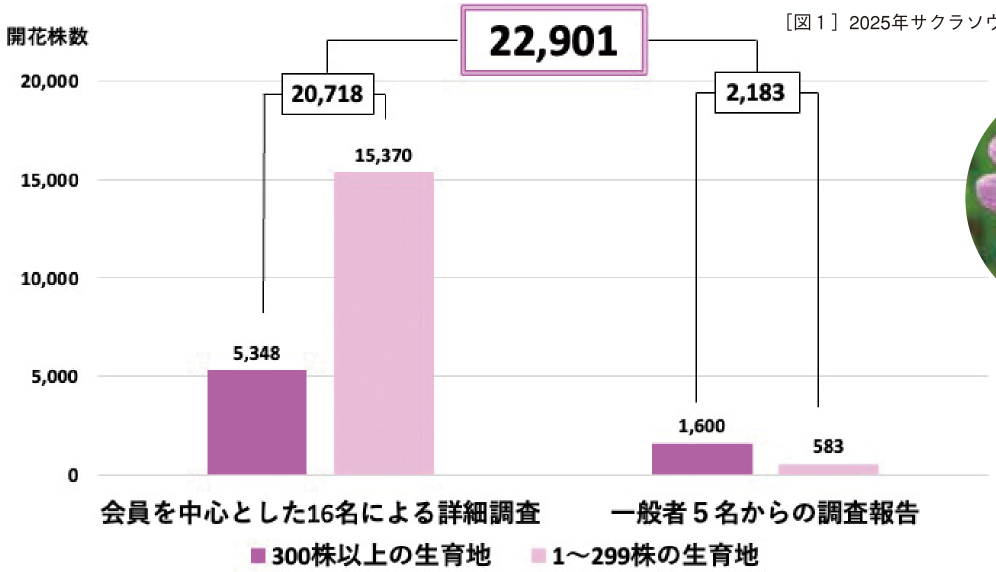
8/16

「三ツ石の草刈り」刈り残しが

全面刈り取りを計画したが、結局、全部は刈り取れず、刈り取った草も搬出できなかった…。今後の方針変更が必要。

サクラソウ全町調査で分かったこと、分からなかったこと

2025年5月1日から5月31日までの１ヶ月間、軽井沢町におけるサクラソウの生育状況について全町調査が行われました。2000年に軽井沢サクラソウ会議が発足して以来、2010年から5年毎に全町調査を行なっています。調査の目的はサクラソウ生育状況の経時的変化を観察し、その要因を考察し自然環境を保全する助けとすることです。



［図１］2025年サクラソウ開花株数

参考：サクラソウ全町調査結果の説明動画

■方　法

調査は２つの形式で行われました。ひとつは会員を中心とした16人で構成する調査チームによる詳細調査です。これは2015年に調査したサクラソウ自生地287ヶ所がどのように変化したかを観察することに加えて新たな自生地を見出す調査です。原則、2人が1組となって地域を分担して調査しました。もう一つの調査は、一般住民から調査結果を報告して頂きました。インターネット、新聞、軽井沢町環境課主催によるシンポジウム「町花サクラソウ、私たちが絶滅危惧種を守るために」（2025年5月10日）を通じて協力を呼びかけました。主な調査内容はサクラソウが開花する場所の位置情報、開花株数となります。今回は紙調査に加え、スマートホンを使用してアベンザ・マップスによるデジタル位置情報を収集しました。

■分かったこと

16名による詳細調査では、555ヶ所を観察しました。516ヶ所において開花したサクラソウが（300株以上は13ヶ所、１～299株は503ヶ所）観察されました。しかし、2015年に調査した39ヶ所では、今回はサクラソウが消滅していることが確認されました。消失の原因は建築などの土地開発（7）、薮、笹、樹木などによる日照不足(4)、畑化(2)、不明(26)でした。一般住民による調査では、16ヶ所のサクラソウ生育地（300株以上は3ヶ所、１～299株は13ヶ所）が5名から報告されました。サクラソウの開花株数の総数は22,901株（詳細調査20,718、一般調査2,183）に上りました（図１）。図２にサクラソウ生育地の1km四方の3次メッシュによる分布状況を示します。

■分からなかったこと

サクラソウが増加しているのか、減少しているのかの正確な比較は困難でした。理由は開花時期の1～2週間で、軽井沢町全域を限られた調査員数で限なく調査することは難しいこと、前回と同じ開花時期に調査することは困難である為です。また、自生地数（観察地点）の増減の比較も困難でした。複数分散して存在する場合、観察地点を幾つにするか判断が難しく新規の観察地点であると断定できないものもありました。加えて、人から